

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100170		
法人名	有限会社 福寿草		
事業所名	グループホーム福寿草(1号館)		
所在地	宮崎県宮崎市大字広原312番地1		
自己評価作成日	令和6年7月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和6年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は高校や会社、民家が立ち並ぶ県道沿いに位置し、施設の周辺にはのどかな田んぼやビニールハウスの風景が広がっている。利用者の皆様は散歩にでかける機会も多く、周辺の農家の方や登下校中の高校生ともあいさつをかわし、ゆったりとした時間の中で日常の生活を送って頂いている。令和5年4月より共用型の認知症対応型通所介護事業所を開設し、1号館3名、2号館3名の利用者の皆様と体操やレクリエーションをしながら交流をいただいている。今年度よりチームケアの構築に力を入れ、勉強会を行うことによってチームケアの必要性や重要性を学んだ。またチームケアを行うことにより利用者様のBPSDIにいち早く気づき、本人のニーズを中心にその思いや要望に添えるように職員一丸となって取り組めるよう研鑽している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲に田園が広がればビニールハウス等に囲まれ、自然を感じる風が吹く風景の中に立地している。散歩等外出もできやすい環境にあり、近隣住民に出会える機会も多い。チームケアに力を入れ、入居者の認知機能低下予防と身体機能の向上にも力を入れている。その取り組みとして、機器も活用しながら、排泄の自立促進のためトイレの誘導回数にこだわらず、動くことを生活リハビリと捉え、立位・移動などを積極的に支援しながら、歩行機能の向上に努めて改善ができています。入居者本人が車いす利用から杖歩行まで回復するなど、機能向上したことに自然と喜びが生まれ笑顔が多くなることを職員も目の当たりにし、チームケアの効果を学びあう努力がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内研修にて理念をとりあげ各棟で理念についての捉え方、取り組み方を模造紙に記載し掲示を行った。また、介護労働安定センターの外部講習にも同様の内容で講義行っていただいた。	事業所理念は玄関に掲示し周知を図っている。毎年、職員研修に理念の実践方法を議題として職員皆で話し合っている。基本理念の各項目ごとに職員でまとめた実践方法を記し、ホールに掲示し実践につなぐための努力が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度より新たな取り組みとして、防災士の資格を取得し、防災士ネットワークに加入し住吉地域に所属した。だが現状住吉地域の月例会の参加者が少なく、佐土原地域と合同でつながりを持ち交流を増やしていく予定である。	防災士の資格を取得して防災士ネットワークの加入で地域住民とのつながりを深めたいと考えている。非常時の備えのためにも人的交流と事業所の理解を得るためのつながりづくりを模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	住吉地区の文化祭にて利用者様の作品を出品して好評であった。今年度は是非祭りへの参加をとお誘いいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的開催をしており、自治会長をはじめ民生委員さんより意見をいただき施設の改善に努めている。会議において事例発表を行った際は好評であった。	運営推進会議で入居者に対する機能向上の取り組みなどを紹介し賛同を得て、事業所に対する理解も深まっている。得られた意見は、職員を含め話し合い、改善と向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	オンライン、オフライン共に開催されている会議に参加している。MCNを通しての連絡や問い合わせも増えてきている。	定期的な運営推進会議の出席を得て日頃の事業所の取り組みを伝えている。入居者の一人ひとりに目を向けたケアサービス等も知ってもらい、良好な協力関係に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本年度の内部研修にて、身体拘束の事例検討会を行った。スタッフ一丸となって意見を出し合い実践に繋がった。今年度より運営推進会議の中で報告と提案を行っている。	現在は、帰宅願望は聞かれるが離設行為は見受けられない。願望のある入居者にはじっくり話を聞くなどして外出の付き添いなど精神安定化に努めている。玄関の施錠はない状態が維持できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のオンラインでの外部研修に全スタッフで参加した。その後施設内研修において、各スタッフで振り返りを行い共有を行った。今年度より運営推進会議の中で報告と提案を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待についての研修会において権利擁護についても触れていた。成年後見人制度を利用している利用者があり、必要に応じて保佐人様と密に連絡を取っている。また、面会時には近況を報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	二つ返事で理解を得られていないと思われる場合にも必ず詳しく説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは適時対応、もしくは、家族会時に対応している。利用者に関しては日々の申し送りや、ミーティングでの情報共有後に話を聞く場を設け対応している。	運営推進会議の前に家族会を行い入居者の状態を伝える。家族からは外出を増やして欲しいなどの意見が出る。出された意見は職員への周知を図り、日々のケアサービスの実践につなぐよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションを通して意見を引き出し、施設長に報告し、反映できるものに関しては行っている。	職員会、日々のミーティング等で意見を求め必要と判断したものは代表者に伝わり検討されている。職員間のコミュニケーションは良好に維持できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに自己評価にて振り返り、当年度での目標を立て、それに向かってフォローアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに各スタッフに受講したい研修、取得したい資格などアンケートをとり、それに基づきフォローを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で難しい状況が続いていたが、オンラインでの参加が増え交流が増えてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の内容明るく声掛けをし寄り添うようにしている。不安そうな顔の方や何か言いたそうな方には二人だけで話せる空間づくりをしようとしている。1対1の場面で本人の不安や要望を引き出せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎週日曜日にリモート面会を行い、遠方の家族の方にも施設での様子やイベントでの出来事をお伝えし喜ばれている。コロナ禍では電話やLINEを活用し写真の送信等を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ミーティングにて必要な支援を共有するようにしている。気づきの多い環境づくりを目指している。家族から前もって情報収集するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	わかりやすく、はっきり、ゆっくり、利用者様のペースに合わせた支援を行うようにしている。介護者のペースになっているときは職員同士で注意しあうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所しやすい雰囲気を作るよう努め、定期的な訪問をしていただくことで信頼関係を築いている。また今後利用者様と担当者との写真を家族に送付したいと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住吉地区のまつりへのお誘いをいただいております。地域との交流も活発に行いたい。家族との面会、また遠方の家族とはリモートを用いて交流をしていただいている。	事業所と同じ地区内の入居者は、近所への買い物・散歩などで声をかけられたりして嬉しい顔が見られている。祭りに作品展示を行い嬉しい評価をもらっている。面会制限は設けていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゆったりとした時間と雰囲気が流れるように努めている。席替えをしたり、レクリエーションのなかで利用者様同士がより良い関係を築けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族とのやり取りも行い、家族が施設に来院して下さる。エンゼルケアに感謝をしていただくことや、お別れの式で施設入所時のビデオを流していただいたこともあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が本人の表情や変化、本人の思いなど些細なことでも察知し、それを申し送りやミーティングで情報共有し職員一丸となって可能な限り本人の希望を叶えられる様努めている。	日々の申し送り、ミーティングで職員間の情報共有を行い十分対応ができるように努めている。本人本位で考えることで身体機能向上につながり精神の安定にも効果が出て、職員のやる気にもつながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との面会時にエピソードや昔の話を聞き、アセスメントツールを活用することによって把握に努めている。また、回想法によって興味や関心を引き出し本人の意欲につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送り、ミーティングなどから一人一人の状態を把握し職員間で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状からニーズを引き出し、それを叶えられるようチームケアの構築を目指している。モニタリングを作成しそれをミーティングで共有すること、また介護計画の評価の充実が課題である。	月に1回、モニタリングと評価を担当者が行い、ミーティングで他職員と共有する。介護計画の充実を目的に職員間で話し合いを重ね、本人本位の計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録用紙へ記入し、申し送りやミーティングで共有できるようにしている。気づいたことや変化などは蛍光ペンや赤字で強調し今後の介護計画への参考になるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望には可能な限り節度を持って答えられる様にしている。病院受診や買い物支援、外食、適量の晩酌や希望される方への染髪を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな生活が送れるように地域資源の活用を行っている。佐土原図書館の利用や公園での散歩、移動パン販売での購入などコロナ禍の終息以降、地域資源の活用が以前より活発になってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の協力医による定期往診やかかりつけ医への付き添い受診を行っている。健康保険証からマイナンバーカードへ移行した際の管理等が今後の課題である。	入居者は訪問診療を月に2回受けている。状態の報告を行いながら、薬の相談などもできている。元々のかかりつけ医受診は、付き添い介助を行い日頃の状態を報告し、相談できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護の来所により協力体制を築いている。来所時の気づきや継続的なケアなどをリモートやSNSを活用して報連相することも多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医との契約を行い、情報交換や情報共有をまめに行って良好な関係を築いている。入院の準備は手早くできるものの、入院前に問診表の作成などをできると手続きがスムーズになると思われる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階から確認を行っている。終末期には医師を交えて家族と話し合いを行い、十分な意思確認と意思疎通を行うようにしている。職員が終末期に関するより専門的な知識を学んでいくことが今後の課題である。	看取りケアに取り組んでいる。終末期ケアを希望する本人・家族の意向を何回も繰り返し確認しながら終末期ケア提供を行う。家族の付き添いなども考慮し、職員は事業所のできる終末期ケアの知識を学ぶことに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、やるべきことや対応の流れを把握している。応急手当の訓練を行いたいと計画している。利用者様の様子や変化の報告が職員間でまめにあると良い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP(事業継続計画)を作成し、施設内研修にて内容を確認し職員が行うべきことを把握した。今後SNSを活用した訓練を行いたいと考えている。	職員の連絡網を作成し、緊急時の職員体制を想定しながら訓練に取り入れている。家族会・運営推進会議委員なども視野に入れ、地域の協力体制を築く努力がなされている。訓練は全員参加である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助の際のプライバシーや言葉遣いなどを職員間で注意するようにしている。自分自身を常に見つめ、気づきを大切にしているようにしている。	尿・便意を大事にし、トイレでの排泄を心がけている。夜間は、トイレに行く動作を運動と捉え誘導している。昼夜を通してトイレ使用者が多い現状があるが、失敗の減少等確かに機能向上にもつながっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションやおやつの時間などで本人が意思決定できるような選択肢を設けるようにしている。最近では染髪の希望が聞かれ、染髪を行って喜んでもらった。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとした時間の中で利用者様に過ごしていただけるよう努めているが、課題である。利用者様がその日何をしたいかを聞いて過ごしていただけるよう努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	染髪や散髪の支援を行っている。またお化粧品をしたり、櫛をお渡しして自ら身だしなみを整えていただいている。おしゃれをして食事の外出支援を行い喜んで頂いた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は難しいのが現状であるが、自宅で作っていた料理を、自ら食材を購入し、調理して皆にふるまい楽しんだりもしている。イベント食やリクエスト食も取り入れている。	調理専門の職員が調理して配膳を手伝ってもらったりしている。地産地消をモットーとし、馴染みのある食材が調理されている。たまに、入居者が調理したいと言出し調理場に立ってもらうが、驚きの出来上がりに圧倒された喜びもあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	猛暑の中水分を取るよう促している。液体が難しい方は電解質ゼリーを導入して水分補給を行っている。食事量や水分量を毎日の記録につけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。嚙合わせ等が気になる利用者様には協力医へ受診を行い調整をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿漏れ防止の体操を行い失敗を減らす環境づくりに努めている。排尿チェック表で個人のパターンを把握し、誘導を行うことで自信につなげるようにしている。	昼夜共に排泄のトイレ誘導が多い。移動や排泄行為を生活リハビリと捉え、声かけ・誘導を行う効果で身体機能の向上も認められている。失敗を減らす環境づくりのため、職員は入居者の表情把握に努め自立支援につないでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師との相談の下で薬剤を使用しながら調整を行っている。ヨーグルトの摂食や入浴時のマッサージなどで薬に頼らない工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に沿う事が難しいのが現状であるが、入浴の順番は希望に答えるようにしている。体調や様子を見ながら支援を行い、入浴ができない方には足浴を行っている。入浴剤を使用し喜ばれている。	週に3回の入浴を目標としているが、拒否する入居者もあり、入浴剤の使用、足浴の提供などの支援を行っている。様子をみながら再度の声かけに応じるときもあり、個々人の意向を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気候や天候によって室温に気を付け空調を調整しながら、それぞれの就寝時間に合わせて就寝している。ベッドの位置等に配慮し、隣室の音が響かないよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の予防として日にちと名前を2名で確認した後、ご本人にも確認をすることによってダブルチェックを行っている。職員が服薬する薬の効能や副作用を理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	許容範囲での晩酌やテレビの視聴などこれまでの習慣が続くように配慮している。お盆やテーブル拭きレクリエーションで作成した作品を綴る作業などできることを行っていたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺への散歩のほか、誕生日等には本人の食べたい物を外食できるよう支援している。外出の機会が増えるよう地域資源を活用したいが、先方への事前連絡等連携が課題である。	花見ドライブを行い、花見の場所で知人に会ったりする場面もある。近くの公園に弁当を持参しピクニック気分を味わってもらったりすることもあり、近隣の散歩を含め外出の機会を増やす努力が行われている。近年珍しいサーカスに行く予定も立てられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得られる方はご自身でお金の所持をされている。移動パンの販売で自分の好きな物を購入したり、買い物支援を行うことで希望の物を買えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができるように支援をおこなったり、電話で家族とコミュニケーションがとれるように支援している。またリモートでの面会支援を行い、利用者様とご家族お互いが楽しみにされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人のお好みの飾りを行っている。食堂・居間は季節感のある掲示や飾りつけを行っている。季節感をもって環境づくりを行う事が目標である。光源の確保と整備が課題である。	入居者皆で作った作品が掲示され、落ち着いた空間になっている。季節感を大事にする努力を行いながら、入居者と共に飾りつけを楽しむ様子がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での席順を考え、利用者様同士のコミュニケーションがスムーズに行えるように考えている。家具の配置換えなど試行錯誤をしながら居心地の良い空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのあるものを家族に持ってきていただき居室に置いて頂いている。本人の好みの置物や絵、本、また家族の写真、仏壇などを飾っている。	それぞれが自分好みの飾り物などを取り入れ、自分らしい居室空間になっている。仏壇を持ち込んでいる入居者の存在もあり、家族写真にも囲まれ居心地の良さづくりの工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員ひとりひとりが気づきを大事にし、利用者様への危険予知をトレーニングすることやKYTを行うことにより安全への配慮を行っている。		